

○放課後児童健全育成事業(学童クラブ)

①当初計画上の量の見込み・確保方策及び入所児童数の実績(各年度4月) 単位:人

区域	項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
市全域 (合計)	量の見込み	低学年	1,156	1,484	1,692	1,839	2,117
		高学年	143	144	151	158	163
	確保方策		1,185	1,545	1,985	2,185	2,425
	実績	低学年	1,161	1,217	1,396		
		高学年	83	86	118		
北部	量の見込み	低学年	281	298	308	302	317
		高学年	34	35	36	38	37
	確保方策		375	375	375	375	375
	実績	低学年	272	257	242		
		高学年	73	75	88		
中部	量の見込み	低学年	291	442	551	638	775
		高学年	30	32	35	40	47
	確保方策		255	415	575	695	855
	実績	低学年	321	370	489		
		高学年	0	1	9		
南部	量の見込み	低学年	383	520	604	662	768
		高学年	48	47	49	50	50
	確保方策		280	480	680	760	840
	実績	低学年	361	392	436		
		高学年	2	2	8		
東部	量の見込み	低学年	201	224	229	237	257
		高学年	31	30	31	30	29
	確保方策		275	275	355	355	355
	実績	低学年	207	198	229		
		高学年	8	8	13		

区域:小学校区

北部:江戸川台小学校区・東深井小学校区・新川小学校区・西深井小学校区

中部:西初石小学校区・八木北小学校区・小山小学校区・おおたかの森小学校区

南部:流山小学校区・流山北小学校区・鱈ヶ崎小学校区・南流山小学校区

東部:長崎小学校区・八木南小学校区・東小学校区・向小金小学校区

学年

低学年:小学校1年生~3年生

高学年:小学校4年生~6年生

《就学児童数・入所児童数・入所率》

単位：人

区域	項目		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
市全域 (合計)	児童数	低学年	4,953	5,187	5,313
		高学年	4,612	4,711	4,795
	入所数 (入所率)	低学年	1,161 (23.4%)	1,217 (23.5%)	1,396 (26.3%)
		高学年	83 (1.8%)	86 (1.8%)	118 (2.5%)
北部	児童数	低学年	982	954	869
		高学年	1,053	1,010	986
	入所数 (入所率)	低学年	272 (27.7%)	257 (26.9%)	242 (27.8%)
		高学年	73 (6.9%)	75 (7.4%)	88 (8.9%)
中部	児童数	低学年	1,536	1,754	1,946
		高学年	1,147	1,286	1,416
	入所数 (入所率)	低学年	321 (20.9%)	370 (21.1%)	489 (25.1%)
		高学年	0 (0.0%)	1 (0.1%)	9 (0.6%)
南部	児童数	低学年	1,419	1,471	1,534
		高学年	1,436	1,428	1,422
	入所数 (入所率)	低学年	361 (25.4%)	392 (26.6%)	436 (28.4%)
		高学年	2 (0.1%)	2 (0.1%)	8 (0.6%)
東部	児童数	低学年	1,016	1,008	964
		高学年	976	987	971
	入所数 (入所率)	低学年	207 (20.4%)	198 (19.6%)	229 (23.8%)
		高学年	8 (0.8%)	8 (0.8%)	13 (1.3%)

《学童クラブの整備実績》

単位：定員数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
北部	0	0	0
中部	90	0	160
南部	0	40	0
東部	70	0	0
計	160	40	160

- ・中部地区及び南部地区を中心に、児童数及び学童クラブの需要は増加傾向が続いている。
- ・平成 27 年度から、3 年生までの児童及び障害を持った児童について、入所基準を満たす年度当初の入所申請者は、優先して原則すべて受け入れる対応を行っている。
- ・4 年生以上の児童については、3 年生までの児童及び障害を持った児童の入所決定後に受け入れ可能な場合において、受け入れを行っている。
- ・入所児童数（在籍児童数）に対して実際に登所する児童数は、平日平均で概ね 8 割程度となっている。
- ・入所児童数についても年間を通じて変動があり、4 月をピークに夏休み後から年度末に向けて退所する児童が出るため、徐々に減少する傾向がある。
- ・平成 26 年度には、定員 70 人(2 単位)の向小金小学校区第 1・第 2 学童クラブ（向小金小学校区）及び定員 90 人(2 単位)のおおたかの森小学校区学童クラブ（おおたかの森小学校区）を整備した。
- ・平成 27 年度には、定員 40 人(1 単位)のひまわり第 2 学童クラブ（鰯ヶ崎小学校区）を整備した。
- ・平成 28 年度には、定員 60 人(2 単位)の第 2 おおぞら学童（流山小学校区）及び定員 100 人(2 単位)の第 3・第 4 おおたかの森ルーム（小山小学校区）を整備した。
- ・弾力的運用として、定員を超えて 3 年生までの児童及び障害を持った児童を受け入れる場合、既存施設の保育面積が不足する際は、放課後使用可能な学校の特別教室等を活用して受け入れを行っている。

②量の見込み・確保方策の見直し(各年度4月) 単位:人(確保方策は定員数)

区域	項目		平成30年度	平成31年度
市全域 (合計)	児童数	低学年	5,647	5,891
		高学年	5,021	5,236
	量の見込み (児童数に対する割合)	低学年		
		高学年		
	確保方策			
北部	児童数	低学年	861	852
		高学年	974	938
	量の見込み (児童数に対する割合)	低学年		
		高学年		
	確保方策			
中部	児童数	低学年	2,166	2,401
		高学年	1,653	1,863
	量の見込み (児童数に対する割合)	低学年		
		高学年		
	確保方策			
南部	児童数	低学年	1,637	1,670
		高学年	1,400	1,447
	量の見込み (児童数に対する割合)	低学年		
		高学年		
	確保方策			
東部	児童数	低学年	983	968
		高学年	994	988
	量の見込み (児童数に対する割合)	低学年		
		高学年		
	確保方策			

- ・量の見込み・確保方策の見直しについては、市内小学校の児童数推計（平成29年4月作成）を基礎として、学童クラブや保育の需要動向等を考慮して検討しており、次回以降の会議において提示します。